

主婦の知名度と利用度についての調査  
同志社女大家政。西田久美 林淳一 梅花短大 高正晴子

目的 前報では女子大生が野菜類・いも類(以下野菜という)をどのような料理の形で食べているかを報告した。今回は主婦を対象にして、同じ形式のアンケート調査を行い、女子大生と比較検討し、年代による野菜の料理への利用の仕方の違いをみた。

方法 前報と同じ野菜107種の知名度と利用度について、1985年夏 主婦114名(30~40才台)についてアンケート調査を行った。あわせて前報にて利用度の高かった野菜50種について、よく作ったり食べたりする料理名を調査した。調査結果を野菜別に、また用いられる料理名に従って分類集計し、前報と比較検討し、また、因子分析を行った。

結果 知名度90%以上の野菜は73種、10%未満は1種、利用度(よく食べる)90%以上は13種、10%未満は44種であった。記載された料理数はのべ13033で 主婦1人当りの記載料理数は女子大生を上まわり、生活経験の豊富さを裏付けた。これを10種に分類すると煮物は27%でもっとも多く、ついであえ物18%、焼き物・炒め物15%であった。出現頻度の高いのは、じゃがいも、たまねぎ、にんじんなどである。主婦ではこれらに続いて他の野菜もまんべんなく使われているのに、女子大生ではさきの3種の野菜に特に集中していた点が主婦と異なる点である。料理の面から見るとサラダ、天ぷら、鍋物などの出現頻度が高かった。次にこれらの調査の結果を変数として、変数間の関係を求めるために因子分析を行った。因子分析は変数間に内在する要因を調べる方法である。野菜を料理に用いるときの考え方の傾向を、また逆に料理にどんな野菜を用いるかを考えるときの傾向をいくつかの要因であらわすために因子分析を行い、いくつかの要因を抽出した。